

--

発表番号

--

--

秒

This image shows a full page of blank graph paper. The grid consists of small squares formed by thin black lines. There are 20 columns and 20 rows of squares. A thicker vertical line runs down the left side of the page, creating a margin. The paper is otherwise completely blank, with no text or markings other than the grid lines.



		制 作 ス タ ッ フ
		キ ャ ス ト
学校名	高等学校	

使用著作物一覧表

部門名:

作品名:

学校名:

番号	分類	著作物名 (曲名・題名等)	著作者名 (作詞・作曲者等)	著作者 の 許諾書	著作隣接権者名 (歌手・演奏者・ レコード会社等)	隣接権者 の許諾書	オリジナルの 所有者
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

・著作権フリーなどの著作権処理のいらない音源を使用したときには、著作権処理不要<利用条件>の書いてある書面のコピーを添付する。

・なお、アーキー・EXインダストリー、サウンドファクトリー、ビデオラボネットワーク、ファンダンゴのものは、コピーの必要はない。

・NHKクリエイティブ・ライブラリーの楽曲・効果音などを使用した場合は、作品中にテロップで表示すること。

(表示方法等詳細は、<http://www1.nhk.or.jp/archives/creative/faq.html>で確認すること)

音源使用許諾申請書

[千葉県高等学校文化連盟放送コンテスト]

【 録音 ・ 録画 】

申込日 令和 元 年 月 日

(レコード会社名) 御中

申請者	住 所	〒		
	学校名 団体・法人名			
	代表者名			
	TEL		FAX	
	担当部署		担当者名	印
	連絡先等	(TEL)	(FAX)	
	e-mailアドレス			

使用音源	使用音源タイトル			
	商品(CD)名			
	商品番号		トラック番号	曲目

使用目的
「全国高等学校総合文化祭放送部門」「関東地区高校放送コンクール」の選考会である「千葉県高文連放送コンテスト」、およびそのコンテストで選出された際の「全国高等学校総合文化祭放送部門」「関東地区高校放送コンクール」に応募し、審査を受けるため。
(なお、受賞作品として放送されることがあるかもしれません。)

使用対象	応募作品のタイトル			
	録音録画物の種類	DVD-R		
	録音録画の数量	2	枚	音源使用時間 秒

音源使用申請に対する回答書

令和 元 年 月 日

(学校名) 学校

(ご担当者名) 殿

レコード会社	担当部署	
責任者	担当者名	印
住所	〒	
TEL	FAX	
e-mail アドレス		

- 上の条件に関し、
- A. 残念ながら許諾できません。 別の楽曲をお使いください。
 - B. 下記条件にて複製許諾を承認します。

〈 使用条件 〉

企画構成： 放送 太郎 高文 次郎 (二年)					撮影： 放送 太郎 高文 次郎 (二年)		録音： 千葉 ほのは (二年)		編集： 千葉 ほのは (二年)		渉外： 放送 太郎 (二年)		制作スタッフ
<div>ナレーション 千葉 ほのは</div> <div>千葉県〇〇センター研究員 山田 太郎さん</div>												キャスト	
学校名			千葉県立 〇〇 高等学校										

部門名 テレビドキュメント 作品名 複製から愛を込めて 学校名 絵温紺高校

番号	分類	著作物名 (曲名・題名・作品名 など)	著作者名 (作詞・作曲者など)	著作者の 許諾書	著作隣接権者名 (歌手・演奏者・ レコード会社など)	隣接権者の 許諾書	オリジナルの 所有者
1	楽曲	Aalbum2 (硝子の中年)	作詞 松本 隆 作曲 山上達郎	JASRAC	ジャーニーズエンタテインメント	○	本校生徒
2	楽曲	頭上の星/リアライト・フロントライト (頭上の星)	作詞作曲 上島みゆき カワハ音楽振興会	JASRAC	カワハミュージック	○	本校生徒
3	楽曲	ベスト・オブ・ベスト・ベ ートベン 「英雄」	消失		ベクターエンターテイメント	○	本校生徒
④	楽曲	School Life Music Vol 5 (ピョン吉の恋心)	アーキー(株)	フリー			本校生徒
5	楽曲	ベクター効果音ライブラ リー800 娯楽 (ゲーム センター風景)			ベクターエンターテイメント	○	本校生徒
⑥	効果音	ドアのきしむ音	自校生徒自作				本校
7	演奏	これがあなたの生きる道	作曲 近田民生	JASRAC	編曲 大島里美		本校吹奏楽部
8	新聞	平成〇年〇月〇日付 朝刊 社説	〇〇新聞社(〇〇記者)	○			
9	出版物	雑誌「週刊日曜日」 2006.2.13号 800ページ	〇〇出版社	○			
⑩	美術品	考える人 (ロダン作・レプリカ)	消失		京都国立博物館		京都国立博物館 (屋外展示)
11	美術品	モナリザ (ダビンチ作・レプリカ)	消失		〇〇市立美術館	○	〇〇市立美術館
12	写真	労働者の写真	〇〇カメラマン	○	労働者たち	○	〇〇市役所
13	手紙	久保隆一郎宛 (昭和9年9月13日付)	消失(太宰治)		青森県近代文学館	○	青森県近代文学館 (青森県立図書館)
14	手紙	祖父宛 (平成17年1月1日)	〇〇さん	○	祖父	○	〇〇さんの祖父
15	ラジオ番組	ニュース (平成18年7月27日)	NHK	○	〇〇さん	○	
⑬	タイトル素材	季節のタイトル素材集 (ふきだし)	ビデオ・ラボ・ネットワーク	フリー			本校放送委員会
17							
18							
19							
20							

著作権処理が不要なものには
○を付けてください。著作権フリーの使用条件で所有者の確認が必要な物があります。
音源に関しては、レンタル店、図書館から借りたものは、
使用しないでください。

解説（ケーススタディ）

これらの例は一般的なものであり、著作物を使用した際には、各自の責任において確認をしてください。

1	JASRACに著作権処理を委託している作詞者・作曲者の場合は、 レコード会社に使用許諾を得てから 、JASRACの著作権処理を行ってください。
2	著作権の管理をJASRACに委託していない作者の場合には、本人（もしくは所属の事務所）の使用許諾が必要になります。なお、このケースでは、著作権の支分権（録音・ビデオ）はJASRACに委託しているので著作権者の許諾は不要です。
3	著作権者が没後50年以上経っていても、CDなどの音源を利用している際には、音源使用許諾が必要になります。
4	著作権処理が不要なCDを販売している会社の音楽を利用した際は、著作権処理不要（利用条件）の書いてあるCDのジャケット面などのコピーを添付してください。（なお、（株）アーキーや（有）EXインダストリーのものは、コピーも必要ありません。）
5	効果音CDなどで「著作権フリー」とタイトルにあっても、著作権隣接権の処理が必要なレコード会社もあるので、必ず確認してから使用してください。
6	自作・自演して自分たちで録音・録画したものは、著作権処理は不要です。
7	作曲者に著作権がある場合は、著作権処理が必要です。（演奏者は、楽譜を所有している必要があります）作曲者が、没後50年以上（外国によってこの年数が違うので注意）経過して著作権が消失している場合は、その旨を文書にしてください。作者の著作権が消失していても編曲されている場合には、編曲者に著作権が生じているので、気を付けてください。また、演奏者たちにも使用許諾をとることが必要になります。
8	9 新聞記事や出版社の印刷物をビデオで撮影する際は 必ず使用許諾の確認を得てください。 ※背景として新聞や本の表紙が写ってしまった場合は必要ありません。
10	屋外で一般公開されている美術品については、著作権処理は必要ありません。
11	美術館の館内での撮影や、画集などを撮影する場合は、必ず美術館や出版社にも文書で確認してください。
12	写真を映像に記録する際には、撮影者や所有者に使用許諾を得てください。 また被写体になった方からも許諾を得てください。
13	公開されている書簡については、所蔵している方に相談してください。
14	親書に当たる手紙については、差出人と受取人（所有者）の双方の許可を得てください。
15	ラジオやテレビ番組を利用するときは、番組の複製になるので必ず使用許諾を得てから使用してください。 また、出演者（インタビューされた人など）、音楽があった場合には、それぞれ許諾を得てください。
16	著作権フリーの素材集を使用した場合は、著作権処理不要（利用条件）の書いてある書面などのコピーを添付してください。

引用に関して

作品中における引用については、著作権法によって認められるものですが、その解釈が一律でないため判断が難しいケースがあります。（記名記事や写真など）そこで、ビデオ部門の作品に関しては、資料を映像に残す（撮影する）際には、必ず著作権者の許諾を得たものを使用する事とします。

--